

1 会員数（1168 名）

2 研究の目的

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、学習上又は生活上の困難を改善・克服するため、適切な指導や支援を行えるよう専門性の向上を図り、今後の特別支援教育の一層の充実を図る。

3 研究主題

幼児児童生徒を基点とする能動的で深い学びの推進

4 活動内容

(1) 研究 1

研究校 4 校による教育課程別の研究及び研究発表

(2) 研究 2

平成 28 年度広島県立教育センター教員長期研修生 3 名による研究成果発表

(3) ポスター・展示発表

研究発表 1・2 の発表校以外の特別支援学校によるポスター発表又は展示発表

(4) 教育研究大会の実施

平成 29 年 12 月 26 日（火）

公益財団法人広島市文化財団 JMS アステールプラザ

(5) ホームページ等による情報発信

5 講演

演題 「特別支援教育における能動的で対話的な深い学び」

講師 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
理事長 宍戸 和成 様



6 研究成果

本研究会は平成 12 年度に発足し、平成 29 年度で 18 年目の活動となった。発足当時は障害種別に 5 つの部会に分かれて研究活動を推進していたが、平成 17 年度から各部会を統合し、研究会全体の研究主題を設定して、募集に応じた研究スタッフによるグループ研究により研究活動を推進してきた。研究大会においては、平成 28 年度までは、グループ別の研究発表のほか、ポスター発表や特色ある取組について学校企画発表を行ってきた。

こうした中、平成 26 年 12 月に広島版「学びの変革」アクション・プランが策定され、幼児児童生徒を基点とする能動的で深い学びである「主体的な学び」を推進する教育活動が全県的に展開されることとなった。また、平成 29 年 2 月には「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プランが策定され、県内すべての乳幼児に対する、乳幼児期に育みたい力の育成に向けた教育・保育の充実が進められているところでもある。

このような動向を踏まえ、平成 29 年度の本研究会は、研究主題を「幼児児童生徒を基点とする能動的で深い学びの推進」と設定し、新たな試みとして、従来のグループ研究及び研究発表から、障害の状態や発達段階に応じた 3 つの教育課程（小学校・中学校・高等学校に準ずる教育、知的障害者である児童生徒に対する教育、自立活動を主とした教育）に焦点を当てた指定研究校による研究及び研究発表、広島県立教育センター教員長期研修生の研究成果の発表、ポスター・展示発表を行うこととした。また、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所から講師として宍戸和成理事長をお迎えし、「特別支援教育における能動的で対話的な深い学び」と題して御講演をいただいた。

このように平成 29 年度は、本研究会や教育研究大会が各校の実践や研究成果を共有する場となるとともに各校の広島版「学びの変革」アクション・プランの推進や更なる専門性向上の一助となったことが成果として挙げられる。研究推進の在り方だけでなく、企画・運営面でも、事務局の推進体制について大きく見直しを図ったところである。新たな試みの中で研究活動を推進してきたが、関係者並びに会員等から頂いた意見やアンケートでは、おおむね高い評価を受けることができた。